

# 學生之新聞

がくせいのおしんぶん 第516号

イベントやボランティア活動などキャンパスの話題を伝える「学生街ダンス」の記事(500字)と写真(1枚)を募集します。採用分には薄謝を贈呈。投稿は郵便番号、住所、氏名、年齢、学校名、学年、原稿確認のための連絡先(携帯電話の番号など)を明記し下のアドレスに。

〒460-8511 中日新聞 教育報道部  
youth@chunichi.co.jp



▽愛知淑徳大 10月10日、高校生対象「体験講義」開催  
9月22日締め切り▽名城大 29日、大学院人間学研究科開設記念講演会 申し込み受け付け中▽名古屋芸術大 29日、ヨアンナ・ドマンスカ氏ピアノ公開講座▽名古屋産業大 10月1日、オープンキャンパス開催=HPは「中日進学ナビ」で検索



ケニアの学校の生徒を対象に栄養調査をする加藤由美さん(ケニア・ニヤンド県で(加藤さん提供))

## HIVと闘う力つけて ケニアの子の栄養改善を

同校OGの看護師加藤由美さん(左)と小森夕貴さん(右)がケニア西部のニヤンド県で青年海外協力隊員として活動している。加藤さんからの依頼で、同校学生らがこの夏、アルバイト先や夏祭り会場など約五十カ所に募金箱を設置した。募金合計は目標の三十五万円を超え、四十六万円余に達した。

「皆さんの協力で多くのお金が集まりました。ケニアの子たちも、より良い生活ができると思います」。同校看護学科二年松山汐里

加藤さんは記者の取材に「東日本大震災で多くのケニア人も悲しみ、教会で祈りしてくれた。あじさい校の活動も、国を超えて思い合っ心に支えられていると感じた」と後輩とその周囲の人たちに感謝した。

ニヤンド県は、エイズウイルス(HIV)感染率が23%とケニア全体と比べても三倍と高い。加藤さんが活動する学校では、六百人の生徒の三分の一の親がHIVで死亡している。貧困

岐阜・あじさい看護福祉専門学校

## OGの活動 募金で支援



加藤さんはこの状況を改善しようと、八月半ばから栄養改善PJを始めた。小学生から高校生までの年齢層が通う現地の学校に農園と家畜飼育場を建設する。教員や生徒、住民も協力し、約八千平方メートルの土地を使い、主食のトウモロコシや豆を栽培し、羊やニワトリを育てる。収穫した作物や家畜の収入で学校給食を実現させること、栄養と農業に関する知識普及の両方を目指している。

加藤さんは、インターネットのブログで、ニワトリ集めや飼育小屋建設の奮闘ぶりを紹介している。小森さんは「世界には治療がかなわない人がたくさんいる。加藤さんのブログを通じて目に見える支援ができてうれしい」と感想。二年田垣風香さん(左)は「病院だけが看護師の仕事の場ではなく、導く国で命に携わる役割もあることを実感した」と話した。

松山さんは「困っている人に手を差し伸べる看護師として、広い視野を持つ人材に成長してほしい。自分の行動が誰かの力となり、世界も変わると実感してもらえれば」と願った。

目標額を超える募金を達成した学生有志ら(岐阜県美濃加茂市川合町)のあじさい看護福祉専門学校で

募金への協力で感謝を伝えるあじさい看護福祉専門学校の(右から)小森さんと松山さん(岐阜県美濃加茂市古井町の木沢記念病院で)



※この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。